

# 西日本の最大都市、 長崎市を支えた近代化遺産群

日本が開港すると、長崎の中心市街地の西岸には長崎製鉄所が建設され、南部の小菅には船舶の修理用のドックが建設された。また、長崎港口の高島炭鉱では西洋技術を導入した石炭の採掘など、長崎において近代重工業が始まった。

明治時代になると、西日本の最大都市に成長した長崎市は、全国に先駆けて、港湾事業、上・下水道事業など、近代的な都市施設の建設を行った。日本の西端に位置する長崎は、国際通信の先端基地でもあった。



小菅修船場(国指定史跡)



小菅修船場機械設備



高島炭鉱北深井坑(日本大学芸術学部所蔵)



トーマス・グラバー



旧グラバー住宅(国指定重要文化財)



旧端島炭鉱(軍艦島)

## (1) 九州・山口の近代化産業遺産群構成資産 (世界遺産暫定登録)

世界遺産登録に向けて

西洋技術の導入による日本の工業化、近代化の原動力となったのが九州を中心とした鉄鋼業、造船業、石炭産業であった。

旧集成館を中心とする近代工場群(鹿児島県・三池炭鉱(福岡県)、小菅修船場や高島炭鉱(長崎県)、八幡製鉄所や筑豊炭鉱(福岡県)、萩の反射炉(山口県)などを構成資産とした九州・山口の近代化産業遺産群)が平成21年に世界遺産の候補として暫定登録された。

### 近代化黎明期の長崎市の産業遺産

長崎では開港直後の1860年(万延1)に長崎製鉄所が建設され、操業した。また、開港後、来航する外国船の修理が必要になり、トーマス・グラバーが中心となって、1868年(明治1)に日本最初の洋式ドックである小菅修船場が建設された。これらの施設が核となり、その後、日本最大の造船所である三菱長崎造船所へ発展して行く。一方、1876年(明治9)日本最初の洋式炭坑である高島の北深井坑が操業し、後に軍艦島として知られる端島炭鉱も1877年(明治10)に操業した。

トーマス・グラバーは1863年(文久3)に南山手に個人の住居を建築したが、これは長崎市のグラバー園の中心建築物として保存されている。

工学部教授

岡林 隆敏

Okabayashi Takatoshi



小ヶ倉ダム



本河内高部ダム



本河内低部ダム



出島橋(土木学会選奨土木遺産)



長崎大学経済学部拱(こまねき)橋(国登録有形文化財)



西山ダム



中島川の出島付近(中島川変流工事)



中島川変流工事直後(1889年頃)  
(長崎大学附属図書館所蔵)



しとき川下水道

## (2) 近代都市の確立 (近代化都市施設群)

### 出島から続く国際貿易都市へ

長崎港を閉塞させる中島川からの流出土砂を湾奥に排除するために、第1次長崎港改修事業が行われ、現在のように中島川が出島の背後に交流された。中島川河口をはじめ周辺の橋梁が近代的な西洋式橋梁に架け替えられた。

外国船が寄航する長崎からは、コレラなどの疫病が全国に広がった。特に1886年(明治19)の流行ではコレラにより全国で約10万人の死者が発生した。近代的な公衆衛生を確立するために、長崎市では全国に先がけて、下水道と上水道を完備した。1891年(明治24)に日本で3番目の近代水道が創設されたが、ダム式水道としては日本で最初のものである。

### 近代化遺産野外博物館 (都市施設)

現在の中島川沿いの出島の曲線は、長崎港改修事業「中島川変流工事」によるものである。1890年(明治23)その河口に架設された「新川口橋」は、のちに移設され「出島橋」となった。使用中の鉄製橋梁では日本で最も古いものである。1891年(明治24)日本最初の本河内高部ダムが完成し、1903年(明治36)には本河内低部ダム、日本で2番目のコンクリート造りのダムが完成した。市街地中心部南方に1926年(大正15)に花崗岩張りの秀逸なデザインの「小ヶ倉ダム」が建設された。

また、長崎市は特異な橋の文化を持つ都市である。長崎大学経済学部拱(こまねき)橋や日本における初期の鉄筋コンクリート橋を見ることが出来る。



三菱史料館



縦削盤(国指定重要文化財)



三菱史料館内部



150トン固定式電動打重機(国登録有形文化財)



第2船台



向島第3ドック



長崎貯線槽と海底線敷設船小笠原丸



NTT 海底線史料館



国際海底電線小ヶ倉陸揚庫(県指定史跡)

### (3) 国際通信と

#### 造船工業の原点 (近代化産業遺産群)

##### 日本における近代産業の原点

幕末に長崎製鉄所が完成し、明治政府は1869年(明治2)グラバー商会から小菅修船場を買収し、工部省管轄の長崎造船所とした。これらの施設は後に、三菱会社に払い下げられ、三菱会社造船所が誕生した。

大北電信会社(デンマーク)が上海とウラジオストックから海底ケーブルを長崎に陸揚げし、日本の国際通信が始まった。1870年(明治3)、小ヶ倉に海底ケーブルの陸揚庫が建設された。他方、台湾との独自の通信システムが必要になった陸軍省は、1896年(明治29)、現長崎市西泊に長崎貯線槽を建設し、長崎市が日本の国際通信の結節点になった。

##### 近代化遺産野外博物館 (産業施設)

三菱の工場群の中に、1909年(明治42)に設置された150トン固定式電動打重機が見える。また1916年(大正5)までに造られた第2船台の赤いガントリークレーンが残されている。ドックとしては、1905年(明治38)建設の向島第3ドックが当時の姿を残している。三菱造船所の構内の「三菱史料館」には、創設期から確立期の史料展示、実物の船のエンジンなどが展示されている。中にあるオランダで製造された縦削盤は、日本最古の工作機械である。長崎市西泊には、1896年(明治29)に建設された長崎貯線槽(陸軍省)槽の事務所(NTT海底線史料館)がある。1870年(明治3)に建設された大北電信会社の「国際海底電線小ヶ倉陸揚庫」は、長崎県有形文化財として保存されている。